

国立病院機構福井病院新規アンギオ室開室

放射線科 佐野敏也



国立病院機構福井病院では、平成18年9月に始めてアンギオ室が出来ました。それまではオーバーチューブ型透視装置（DSA対応）で腹部血管造影検査を行っていました。

3年前には脳神経外科が診療を始め、脳血管撮影もこの透視装置で数例の脳血管撮影を行いました。しばらくは、循環器科や脳神経外科・消化器系の腹部血管造影検査が透視装置の取り合いとなり、うれしい悲鳴となりました。前々からの予定とその反動もあって、昨年度末にアンギオ装置の据え付けの話が出てきました。

どのような装置が入るのか、心血管を優先するか、脳血管か、はたまた腹部血管かという論争から、フラットパネル装着でなければ譲れない。と、水面下の話が飛び回っていました。

そう言っている間に、脳神経外科の医長は他の病院へ行き、脳神経外科は休診となってしまう、アンギオ装置は心血管と腹部血管が満足行くような設計を考えていくこととなりました。シングルプレーン、フラットパネル、Cアームタイプ、画像処理装置、もうしぶんのない装置に決まりました。

次に、装置は何処へ入れるか、放射線科の位置するところは病院の入り込んだ一角に在り、廻りには中庭が点在している。一昨年前には、放射線科に隣接する空き地にMRI室が建ち、一般撮影室を削ってMRI室へ通じる廊下を通した。なかなか画期的な案でした。今回は、どうなるのかと期待していると採光用の中庭へアンギオ室が建ちました。中庭の廻りは一周廊下ですので、クレーンを使い、全て吊り下げて建家建設となりました。

アンギオ検査のスタッフはどうするのか、アンギオ室が開くからといって、放射線技師は特別講習会や練習といったことはせず、転勤でまわってきた技師が多く、以前の施設で心カテ検査を経験しているので、心カテ検査を始めることはできます。念のため、最近の検査を見るために、3人の技師を近隣の病院で装置の使用状況を見に行った。看護部の配置はそのころ解らず、大病院での研修に何名が出張しているらしい。いざ、検査が始まり、放射線技師はしばらく装置になれるまで2人で着き、早い目のローテーションで夜間緊急に対応出来るよう配置中です。看護師は心カテ、および、それ以外の検査内容によって、病棟と外来の看護師が担当となり複数の部署が検査別に対応する状態です。

だから、アンギオ室の専任看護部署は在りません。ポリグラフは現在メーカーの人が来ておこなっています。将来は検査技師が付くのでしょうか。

問題点は？部屋掃除は誰がするのでしょうか？検査に付いたスタッフで行うように決定しました。汚物流しの流し方？新しい流しの蛇口なので、まだ戸惑っている人もいます。物品補充は？当初、担当看護部署毎に物品を持ち込もうとしていたので、ダブっている物品も多く、なんとか、統一し、SPD補充方式と物品預託方式を採用することになりました。検査中の清潔医師の廻り担当者は？検査前・検査中のカテ物品出しは？いろいろと初めて付く人が多いので大変なようです。部屋の形状による問題点は、検査室の前室の広さはどうか？次患者待ちや申し送り、病室ベットからストレッチャー乗り換えなど考えると広めが良かったかもしれません。ゴミは？検査中出てくるゴミを溜めるゴミステーションとゴミの排出ルートも考慮する必要性がありました。

新しくアンギオ室を建て、今まで通りの転勤で通過してきた病院と同じようにみえていたが、この病院にとっては初めてのことであり、いろいろなつまづきを当初から出てきました。今後も数多くの問題が出てくるかと思われませんが、流れの良いアンギオ室を作り上げていくためにも、みなさんのアンギオ室の現状を訪ねていくかもしれません。よろしくお願いします。

